



# 徳成寺 寺とかわら版 第172号 2021年4月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

「これまでの経験が荷物になるか、それとも次の土台になるか」とは、先日のNHKで放送された「逆転人生」の薄井シンシアさん

の言葉です。子育てが一段落した47歳の頃、給食の仕事をはじめた彼女。

そこから会員制クラブの電話受付・高級ホテル・大手飲料メーカーの東京オリンピックホスピタリティー責任者に58歳にして駆け上がった方です。

専業主婦時代、不得意な料理を工夫して乗り越えた経験が給食の仕事に生きました。

給食を通じて生徒たちを喜ばせた経験が活かされて、会員制クラブや高級ホテルで引き立てられ、今度は大手飲料メーカーの目に止まるまでになったそうです。

現代版わらしべ長者みたいです。一方、これまでの経験が荷物になるとは、

過去の経験を威張ったり自慢することなどでしょうか。絶えず次への土台になるよ

うに、経験が澄み浄められるのは、浄土真宗の教えに相通じると感心致しました。

発行責任者  
住職  
大山健見  
坊主  
大山ひとみ



## 大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、長男です。

お彼岸でお世話になった門徒の皆様、ありがとうございました。お参りの際に、妻が高松にやってきたことを伝えると、祝福の言葉と「お嫁さんを大事にね」という激励の言葉をたくさん頂きました。気にかけていただいてありがたい事だと感じています。そんな中ある門徒さんが「大事にする」という事について「大事にすると言うのは奥さんの要求に全て応える事ではなく、丁寧な言葉で対話をする事だ」というような趣旨の話をしてくださいました。その方は「奥さんと立場を競ってはいけません。上下関係ではなく、信頼しあえるのが夫婦の関係です。お互い信頼できるように丁寧な言葉で話すのが大事です」と仰っていました。写真は2人で作った手作り餃子です。作るまでの工程が多いのに食べるのは一瞬。信頼関係の構築も長い時間がかかりますが、崩れる時は一瞬です。頂いたアドバイスに従って丁寧な付き合いをしていきたいものです。

